

4 泌尿器科領域における漢方治療の経験

笹川 真人

大学前クリニック笹川医院

Experience of Kampo Therapy in Urological Disease

Makoto SASAGAWA

Daigakumae Clinic Sasagawa Iin

泌尿器科外来の処方頻度の高い漢方薬を紹介し、その中で過活動膀胱における牛車腎気丸の効果と使用方法、前立腺炎様症候群における駆瘀血剤の使用経験を中心に報告した。過活動膀胱は基礎疾患に関係なく尿意切迫感や頻尿を有する蓄尿障害の状態、日本人においても頻度は高く、高齢社会のQOLの面から泌尿器科領域の重要課題である。

牛車腎気丸は脊髄内の知覚抑制系に作用することにより、膀胱充満感を軽減し膀胱収縮頻度を抑制する。抗コリン剤のように膀胱収縮力を抑制しないため残尿量に影響しない。

前立腺炎様症候群は下部尿路や前立腺に明らかな異常がないのに慢性前立腺炎と同様に骨盤周囲の痛みや尿路不定愁訴を認める疾患で、約60%は骨盤内鬱血を呈するタイプと言われている。

骨盤内鬱血を呈するタイプを漢方で言うところの瘀血と捉え、経直腸的前立腺超音波検査で確認できる前立腺周囲の静脈叢の拡張が瘀血のパラメーターとなりえるかを検討した。経直腸的前立腺超音波画像と超音波カラードップラー画像で前立腺周囲の静脈叢の拡張を提示し、これが瘀血のパラメーターとして有効である可能性を示し、治療として駆瘀血剤の有効性を示した。

司会(田中) 笹川先生どうもありがとうございます。どうぞフロアの方からご質問・ご発言ございませんでしょうか？では私から質問させていただきます。OABの話がされましたが、漢方は尿失禁なんかには使えますか？その辺のご経験おありですか？

笹川 尿失禁があってもなくてもOABという概念に入るんですが、実際に尿失禁が強いときには多分牛車腎気丸は効かないと思います。かえって葛根湯ですとか補中益気湯などの方が多分効くのじゃないかと思います。

司会(田中) ほかに何かございますか？どうぞ。

八木 小児外科の八木です。貴重なお話ありがとうございました。消化器外科の診療をやっていて術後排便障害がありますと、先生が今おっしゃられたような尿失禁を時々、認めることがあります。臓器の発生段階で直腸と膀胱は近い関係にあるので、便失禁がある子は尿失禁もあることがあります。そういう時に抗コリン剤を投与すると便失禁はある程度の率で改善されますし、尿失禁の方も良くなります。その考えを今度は漢方薬の方にシフトしまして、田中教授がお話になられたように笹川先生は牛車腎気丸に関しては尿失禁に有効でないというようなことをお話になられましたけども、同じような発想で、先生自身のご経験で尿失禁の方に漢方薬をお使いなられていて、たまたま加齢とともに便の軽い失禁があった方に排尿障害の漢方治療をしているうちに排便障害もよくなったというご経験はありましたでしょうか？

笹川 便のほうに関して私は経験ありません。ですが

Reprint requests to: Makoto SASAGAWA
Daigakumae Clinic Sasagawa Iin
203 Daigakumae,
Joetsu 943-0810 Japan

別刷請求先: 〒943-0810 上越市大学前203
大学前クリニック笹川医院 笹川 真人

尿失禁の患者さんに抗コリン剤を使っててもどうしても副作用が出て使いにくいという場合に併用して使う、抗コリン剤少量で牛車腎気丸も使うということは意味があるんじゃないかなと思って実際私もそのような使い方をしてます。牛車腎気丸だけで尿失禁を止める力が

あるかといいますと多分無いと思います。

司会（田中） ほかに何かありますでしょうか？それでは笹川先生どうもありがとうございました。続きまして「小児消化器外科領域における漢方治療と EBM」について八木先生お願いします。

5 小児消化器外科領域における漢方治療と EBM

八木 実

新潟大学大学院医歯学総合研究科

小児外科学分野

（主任：窪田正幸教授）

Herbal Medicine and its EBM in the Pediatric Gastrointestinal Surgery

Minoru YAGI

Department of Pediatric Surgery,

Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences.

(Director: Prof. Masayuki KUBOTA)

Abstract

The trend of clinical use of herbal medicine is discussed. Recently, some of these substances have been prescribed for children. However, it has only been 20 years since herbal medicine has been widely used in the field of pediatric surgery. Some of the principal herbal medicines used for daily treatment in pediatric surgery today are Rikkunshi - to for gastric motility disorders; Daikenchu - to for ileus and constipation; Inchinko - to for biliary atresia. The results of treatment using these medicines have been better with EBM than the results without any prescription.

Key words: herbal medicine, pediatric surgery, EBM, 漢方治療, 小児消化器外科

はじめに

昨今、小児消化器外科領域でも周術期管理の進歩により侵襲のある手術後も合併症もなく克服できるようになってきている。その一方で、長期生

存例における消化器に関する不定愁訴例も認められるようになってきている。そのため、日常診療において救命はもちろんのこと術後遠隔期の QOL の向上が課題である。消化器外科術後に関する愁訴の克服には内科治療がメインとなるが、

Reprint requests to: Minoru YAGI
Department of Pediatric Surgery
Kurume University School of Medicine
67 Asahimachi,
Kurume 830 - 0011 Japan

別刷請求先：〒830 - 0011 福岡県久留米市旭町 67
久留米大学医学部外科学講座小児外科部門

八木 実